

事務事業名	美術博物館教育普及事業		会計	一般会計	事業種別	政策	開始	1	終了	
H27担当課等名	美術博物館	H27係等名	学芸係		H26係等名	学芸係				
基本計画上の位置づけ	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり							
	施策	29	ふるさと意識の醸成							
目的	対象(誰・何を)	1 飯田下伊那広域圏の地域住民(一般市民、高校生、小中学生)				対象指標	指標名及び単位		26年度数値	
	意図(どうい状態にするか)	1 館の調査研究の成果を市民に還元し、あるいは支援して、自然・文化・芸術への関心と理解を高める					圏域住民数(人)		164580	
	向上させたい上位施策の成果指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)								
目標	種別	指標名及び単位			26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)	
	成果指標	主催事業あるいは館・学芸員関わった教育普及活動の数(回) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)			350	423	350	350		
	成果指標	主催事業あるいは館・学芸員等関わった館内外事業の参加者数(人) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)			12000	13711	12000	12000		
定性目標										
事業概要	<p>1 美術博物館の調査研究活動の中で蓄積された研究結果や情報、展覧会などで展示される作品や資料について、その特性や魅力を講座・講演会などで紹介する。</p> <p>2 子ども向けの講座・教室・学校訪問などを実施し、伊那谷の自然と文化への学習意欲を高める。</p> <p>3 小中高校・大学・かわらんべ・地域のまちづくり委員会・地域サークルなど諸機関・諸団体の要請に応え、授業や講演・現地案内などを行う。</p> <p>4 伊那谷の希少生物生息地・露頭・遺跡・社寺・歴史・民俗などの保存と活用に関する事業を行う。具体的には南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの研究と整備を地域住民と共同しながら実施する。</p>									
26年度事業内容	事業内容				名称			活動指標		
	1 一般対象講座等(主催) 美術講座(4回)、美術文化講座(11回)、信濃の歴史講座(3回)、古文書講座(12回×2班)、自然講座(18回、自然史発表会を含む)、第7回びはく学芸祭(1回)、ドームイベント(1回)他				1 一般対象主催講座の開催数			1 90回		
	2 子ども対象講座等(主催) 第9回美博まつり(17ワークショップ×2日)、子ども科学教室(4回)、子どもお絵かき教室(1回)、子ども写真学校(1回)、星空観察教室(4回)、宇宙をのぞこう(6回)				2 子ども対象主催講座の開催数			2 61回		
	3 その他主催事業 小中高校生写真賞、県展・郡展作品展示				3 その他の主催事業数			3 2事業		
	4 招聘授業・講座・講演会等への協力				4 招聘授業・講座・講演会等の数			4 270回		
事業コスト	25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足					
事業費計(千円)①	3,279	4,830	4,576	4,306	[25特定財源] (そ) 諸収入 [26特定財源] (そ) 過疎地域自立促進基金繰入金、(そ) 諸収入 [27特定財源] (そ) 過疎地域自立促進基金繰入金、(そ) 諸収入					
国庫支出金										
県支出金										
起債										
その他	295	2,873	2,679	1,314						
一般財源	2,984	1,957	1,897	2,992						
人件費計(千円)②	715		0							
正規職員所要時間	200									
臨時職員所要時間										
総事業費①+②	3,994	4,830	4,576	4,306						
事業内容・目標達成状況の振り返り	主催・館外活動ともに活発で、第9回美博まつりも2000人を越えることができた。									
改革改善の考え方	①問題点	地域の研究者が高齢化し減少している。一般向けの主催講座では受講者が固定化する傾向にある。学校教育との連携の面ではまだ十分でない。広報が十分でない。								
	②改革提案	伊那民俗学研究所・伊研協との協力関係を一層強める。HP・飯田市広報などを活用して事業の広報に力を入れる。								